

注3

大学番号：私400

[平成24年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

届出

神戸薬科大学大学院 薬学研究科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 神戸薬科大学
平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務部 教務課

職名・氏名 係長 ナガノ トヨイタ 永野 豊旗

電話番号 078-441-7509

（夜間） 078-453-0033

F A X 078-441-7613

e-mail kyomu@kobepharm-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1 調査対象大学等の概要等	1
2 授業科目の概要	5
3 施設・設備の整備状況、経費	8
4 既設大学等の状況	9
5 教員組織の状況	10
6 留意事項に対する履行状況等	18
7 その他全般的事項	19

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 神戸薬科大学

(2) 大学名

神戸薬科大学

(3) 大学の位置

〒658-8558

兵庫県神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ササベ ショウゴ) 雀部昌吾 (平成18年6月1日)		
学長	(タナハシ タカ オ) 棚橋孝雄 (平成19年4月1日)	(キタガワ シュウジ) 北河修治 (平成25年4月1日)	前任者任期満了に伴う学長交代 (平成25年4月1日) (25)
研究科長	(タナハシ タカ オ) 棚橋孝雄 (平成19年4月1日)	(キタガワ シュウジ) 北河修治 (平成25年4月1日)	前任者任期満了に伴う研究科長 交代(平成25年4月1日) (25)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成24年度開設の博士後期課程の場合(平成26年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
薬学研究科 薬学専攻(博士課程) 博士(薬学)	4年	3人	12人	基礎となる学部等 薬学部 14条特例の実施

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	3人	—人	3人	—人	3人	—人	(—)	(—)	1.55倍	
志願者数	(2)	(—)	(2)	(—)	(1)	(—)	[—]	[—]		
受験者数	6	(—)	7	(—)	3	(—)	[—]	[—]		
合格者数	6	(—)	7	(—)	3	(—)	[—]	[—]		
B 入学者数	6	(—)	6	(—)	2	(—)	[—]	[—]		
入学定員超過率 B/A	2.00		2.00		0.66					

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成24年度		平成25年度		平成26年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 6	[-] -	[-] 6	[-] -	[-] 2	[-] -	
2年次	/		[-] 6	[-] -	[-] 6	[-] -	
3年次			/		[-] 6	[-] -	
計	[-] 6	[-] 12			[-] 14		

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成23年度 入学者	人	人	平成23年度	人	人		%
			平成24年度	人	人		
			平成25年度	人	人		
			平成26年度	人	人		
平成24年度 入学者	6人	0人	平成24年度	人	人		0.0%
			平成25年度	人	人		
			平成26年度	人	人		
平成25年度 入学者	6人	0人	平成25年度	人	人		0.0%
			平成26年度	人	人		
平成26年度 入学者	2人	0人	平成26年度	人	人		0.0%
合計	14人	0人					0.0%

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

＜神戸薬科大学大学院 薬学研究科＞

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
薬学専門教育科目	薬学研究基盤形成教育	1通	4			1						兼6 「病態薬理生化学特論」において、太田 光照教授及び小林 吉晴准教授2名の定年退職。加藤 郁夫教授1名の新規採用により計1名減。(25) がんプロフェッショナル養成基盤推進プランへの連携大学としての加入に伴い、「がん医療薬学特論」を追加。岩川 精吾教授及び水野 成人教授が担当。(25) 「化学系創薬学特論」において、守安 正恭教授の定年退職。上田 昌史准教授及び土反 伸和准教授2名の担当者追加により計1名増。(26) 昇任により、専任教員等の配置を変更。(26) 「生物系創薬学特論」担当。小西 守周（教授） 兼1 「病態薬理生化学特論」において、水谷 暢明准教授の担当者追加により1名増。(26)
	化学系創薬学特論	1・2前		2			3	3				
	物理系創薬学特論	1・2前		2			3					
	生物系創薬学特論	1・2後		2			3	2				
	臨床薬剤学特論	1・2前		2			2	1				
	病態薬理生化学特論	1・2後		2			2					
	疾患解析治療学特論	1・2前		2			2					
	がん医療薬学特論	1・2後		2			2					
演習科目	薬学演習Ⅰ	1通	1			15	10	17	4		昇任により、専任教員等の配置を変更。(25) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 上田 昌史（准教授） 中山 和彦（助教） 採用により、専任教員を追加。(25) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 加藤 郁夫（教授） 新任により、専任教員を追加。(25) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 井上 潤（助教） 定年退職により、専任教員減少。(25) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 太田 光照（教授） 小林 吉晴（准教授） 昇任により、専任教員等の配置を変更。(26) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 小西 守周（教授） 水谷 暢明（准教授） 土反 伸和（准教授） 前田 秀子（講師） 採用により、専任教員を追加。(26) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 池田 宏二（准教授） 森脇 健介（講師） 定年退職により、専任教員減少。(26) 守安 正恭（教授） 辞任により、専任教員減少。(26) 中山 和彦（助教） 井上 潤（助教）	
	薬学演習Ⅱ	2通	1			15	8	17	4			
	薬学演習Ⅲ	3通	1			14	7	17	4			
	薬学演習Ⅳ	4通	1			13	7	17	4			
						12	5	15	7			

研究・ 研修科目	薬学課題研究Ⅰ	1通	4	15	10	17	4	昇任により、専任教員等の配置を変更(25) 薬学課題研究Ⅰ～Ⅳ担当 上田 昌史(准教授) 中山 和彦(助教) 採用により、専任教員を追加(25) 薬学課題研究Ⅰ～Ⅳ担当 加藤 郁夫(教授) 新任により、専任教員を追加(25) 薬学課題研究Ⅰ～Ⅳ担当 井上 潤(助教) 定年退職により、専任教員減少(25) 薬学課題研究Ⅰ～Ⅳ担当 太田 光熙(教授) 小林 吉晴(准教授) 昇任により、専任教員等の配置を変更。(26) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 小西 守周(教授) 水谷 暢明(准教授) 土反 伸和(准教授) 前田 秀子(講師) 採用により、専任教員を追加。(26) 薬学演習Ⅰ～Ⅳ担当 池田 宏二(准教授) 森脇 健介(講師) 定年退職により、専任教員減少。(26) 守安 正恭(教授) 辞任により、専任教員減少。(26) 中山 和彦(助教) 井上 潤(助教)
	薬学課題研究Ⅱ	2通	4	15	8	18	5	
	薬学臨床研修Ⅰ	1通	4	2	10	17	4	
	薬学臨床研修Ⅱ	2通	4	2	8	17	7	
	薬学課題研究Ⅲ	3通	4	14	7	18	5	
	薬学課題研究Ⅳ	4通	4	13	7	18	5	
					12	5	15	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
7科目	10科目	科目	17科目	7科目	11科目	科目	18科目	がんプロフェッショナル養成基盤推進プランへの連携大学としての加入に伴い、「がん医療薬学特論」を追加した。(25)
				[]	[1]	[]	[1]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにもかかわらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目 「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{} \quad 0.00$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	42,250 m ²	m ²	m ²	42,250 m ²				
	運 動 場 用 地	18,132 m ²	m ²	m ²	18,132 m ²				
	小 計	60,382 m ²	m ²	m ²	60,382 m ²				
	そ の 他	36,257 m ²	m ²	m ²	36,257 m ²				
	合 計	96,639 m ²	m ²	m ²	96,639 m ²				
(2) 校 舎	専 用	43,355 39,252 m ²	m ²	m ²	43,355 39,252 m ²	80周年記念館(6号館) 竣工(25)			
	(43,355 39,252 m ²)	(m ²)	(m ²)	(43,355 39,252 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	補助職員3人の内1人 は教員 教員が定年退職(25) 事務職員を採用(25) 教員を採用(26)			
	36 室	7 室	14 室	3 室 4人 (補助職員→3人)	0 室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	薬学研究科 薬学専攻			45 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機械・器具	標 本	平成24年5月1日現在の 調査により、数値が確 定したため変更(24) 平成25年5月1日現在の 調査により、数値が確 定したため変更(25) 平成26年5月1日現在の 調査により、数値が確 定したため変更(26)	
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	薬学研究科 薬学専攻	111,000 [32,400] 107,661 [29,391] 106,819 [29,287] 106,498 [29,824] 107,800 [32,000]	564 [332] 550 [321] 547 [319] 554 [323] 552 [324]	3,240 [3,235] 2,955 [2,953] 2,983 [2,981] 2,890 [2,888] 3,000 [2,995]	2,675 2,706 2,685 2,616 2,595	47 47	0 (0)		
	計	111,000 [32,400] 107,661 [29,391] 106,819 [29,287] 106,498 [29,824] 107,800 [32,000]	564 [332] 550 [321] 547 [319] 554 [323] 552 [324]	3,240 [3,235] 2,955 [2,953] 2,983 [2,981] 2,890 [2,888] 3,000 [2,995]	2,675 2,706 2,685 2,616 2,595	47	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	1,291		288		118,667				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				建替工事中(24) 80周年記念館(6号館) 竣工(25)		
	1,330m ² -0m ² +575m ²		テニスコート 2面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	平成24年5月1日現在の 調査に伴い変更(24) 平成25年5月1日現在の 調査に伴い変更(25) 平成26年5月1日現在の 調査に伴い変更(26)
		教員1人当り研究費等	1,300千円 -790千円	1,480千円 1,300千円 -790千円	図書購入費	300千円	300千円	300千円	
	共同研究費等	25,000千円 22,000千円	21,300千円 25,000千円 22,000千円	設備購入費	5,000千円	5,000千円	5,000千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運用コストを 含む)を含む。 第1年次は入学金を含 む。	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	神戸薬科大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	取 容 定 員	学位又 は称号	平均定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
薬学部 薬学科	6	270	該当なし	1,620	学士 (薬学)	1.09	平成18	兵庫県神戸市 東灘区本山北町 4-19-1	平成24年度より 学生募集停止
薬学研究科 修士課程 薬科学専攻	2	5	該当なし	10	修士 (薬科学)	0.4	平成22		
博士課程 薬学専攻	4	3	該当なし	12	博士 (薬学)	1.55	平成24		
博士後期課程 薬学専攻	3	-	該当なし	-	博士 (薬学)		昭和54		

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。(ただし, 専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。)
- ・ 「平均定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を, 学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には, 専攻課程)単位で記入してください。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員と収容定員は「-」とし, 「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
 - ・ 大学, 短期大学においては学科単位(短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位), 大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授(学長、研究科長)	棚橋 孝雄	平成24年4月	化学系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ		教授		平成25年4月		平成25年3月学長、研究科長任期満了。(25)
専	教授	岡野 登志夫	平成24年4月	生物系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ						
専	教授	守安 正恭	平成24年4月	化学系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ					化学系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ	平成26年3月定年退職。土反 伸和准教授が「化学系創薬学特論」を担当。(26)
専	教授	岩川 精吾	平成24年4月	臨床薬剤学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学臨床研修Ⅰ 薬学臨床研修Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ 薬学研究基盤形成教育					がん医療薬学特論	担当授業科目に「がん医療薬学特論」を追加。(25)
専	教授	太田 光熙	平成24年4月	病態薬理生化学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学課題研究Ⅰ					病態薬理生化学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学課題研究Ⅰ	平成25年3月定年退職。平成25年4月採用の加藤 郁夫教授がすべての担当授業科目を、吉野 伸教授が引き継ぎ「病態薬理生化学特論」を担当。(25)
専	教授	吉野 伸	平成24年4月	病態薬理生化学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	教授	小林 典裕	平成24年4月	物理系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	教授	和田 昭盛	平成24年4月	化学系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						

専	教授	中山 尋量	平成24年4月	物理系創薬学特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV						
専	教授	北川 裕之	平成24年4月	生物系創薬学特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV						
専	教授	北河 修治	平成24年4月	臨床薬剤学特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV		教授 長、 研究 科 長)		平成25年4月		平成25年4月学長・研究科 長就任。(25)
専	教授	水野 成人	平成24年4月	疾患解析治療学 特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV					がん医療薬学特 論	担当授業科目に「がん医療 薬学特論」を追加。(25)
専	教授	宮田 興子	平成24年4月	化学系創薬学特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV						
専	教授	江本 憲昭	平成24年4月	疾患解析治療学 特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学臨床研修 I 薬学臨床研修 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV						
専	教授	向 高弘	平成24年4月	物理系創薬学特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV						
専	准教授	小林 吉晴	平成24年4月	病態薬理生化学 特論 隔年 薬学演習 I 薬学課題研究 I					病態薬理生化学 特論 隔年 薬学演習 I 薬学課題研究 I	平成25年3月定年退職。平 成25年4月採用の加藤 郁夫 教授がすべての担当授業科 目を、吉野 伸教授が引き 継ぎ「病態薬理生化学特 論」を担当。(25)
専	准教授	山野 由美子	平成24年4月	化学系創薬学特論 隔年 薬学演習 I 薬学演習 II 薬学演習 III 薬学演習 IV 薬学課題研究 I 薬学課題研究 II 薬学課題研究 III 薬学課題研究 IV						

専	准教授	竹内 敦子	平成24年4月	生物系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	准教授	寺岡 麗子	平成24年4月	臨床薬剤学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	准教授	津川 尚子	平成24年4月	生物系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	准教授	小西 守周	平成24年4月	生物系創薬学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ		教授		平成26年4月		平成26年4月昇任。(26)
専	講師	多河 典子	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	竹仲 由希子	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	八木 敬子	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	上田 久美子	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	三上 雅久	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	八巻 耕也	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						

専	講師	西村 克己	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	中川 公恵	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	准教授		平成24年4月			平成24年4月昇任。(24)
専	講師	瀬中 里美	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	水谷 暢明	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	准教授		平成26年4月	病態薬理生化学 特論		平成26年4月昇任。「病態薬理生化学特論」の担当者に追加。(26)
専	講師	三木 生也	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ				薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ		平成24年3月退職により辞任。すべての担当授業科目を、水野 成人教授及び平成24年4月採用の棚橋 俊仁准教授が担当。(24)
専	講師	田中 将史	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	上田 昌史	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	准教授		平成25年4月	化学系創薬学 特論		平成25年4月昇任。(25) 「化学系創薬学特論」の担当者に追加。(26)
専	講師	西山 由美	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	講師	都出 千里	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	助教	林 亜紀	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	助教	前田 秀子	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	講師		平成26年4月			平成26年4月昇任。(26)

専	助教	沖津 貴志	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ				平成24年4月		平成24年4月昇任。(24)
専	助教	士反 伸和	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ		講師 准教授		平成24年4月 平成26年4月	化学系創薬学 特論	平成24年4月昇任。(24) 平成26年4月昇任。「化学系創薬学特論」の担当者に追加。(26)
専	助教	藤波 綾	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ		講師		平成24年4月		平成24年4月昇任。(24)
専	助教	大山 浩之	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
専	助教	増田 有紀	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ						
兼任	教授	内田 吉昭	平成24年4月	薬学研究基盤形成教育						
兼任	教授	中江 裕子	平成24年4月	薬学研究基盤形成教育						
兼任	教授	木口 敏子	平成24年4月	薬学研究基盤形成教育	兼任	講師			薬学研究基盤形成教育	平成25年3月定年退職。非常勤講師として引き続き「薬学研究基盤形成教育」を担当。(25) 平成25年10月採用の土生康司講師が「薬学研究基盤形成教育」を担当することにより任期満了。(26)
兼任	准教授	松家 次朗	平成24年4月	薬学研究基盤形成教育						
兼任	講師	山元 二郎	平成24年4月	薬学研究基盤形成教育					薬学研究基盤形成教育	平成26年3月定年により任期満了。平成26年4月採用の中井久郎講師が「薬学研究基盤形成教育」を担当。(26)
兼任	講師	土井 脩	平成24年4月	薬学研究基盤形成教育					薬学研究基盤形成教育	平成26年3月定年により任期満了。平成26年4月採用の津田重城講師が「薬学研究基盤形成教育」を担当。(26)
兼任	講師	平井 みどり	平成24年4月	疾患解析治療学特論 隔年 薬学臨床研修Ⅰ 薬学臨床研修Ⅱ						

					専	准教授	棚橋 俊仁	平成24年4月	疾患解析治療学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	採用により担当教員となった。(24) 「疾患解析治療学特論」の担当者に追加。(25)
					専	講師	安岡 由美	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	新任により担当教員となった。(24)
					専	講師	萩森 政頼	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	採用により担当教員となった。(24)
					専	助教	池畑 美香	平成24年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	新任により担当教員となった。(24) 細川 美香。結婚に伴う姓の変更。(26)
					専	教授	加藤 郁夫	平成25年4月	病態薬理生化学特論 隔年 薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	採用により担当教員となった。(25)
					専	助教	中山 和彦	平成25年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	昇任により担当教員となった。(25) 平成26年3月 中山 和彦助教転職のため辞任。平成26年4月採用の池田 宏二准教授がすべての担当授業科目を担当。(26)
					専	助教	井上 潤	平成25年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	新任により担当教員となった。(25) 平成26年3月 井上 潤助教転職により辞任。平成25年10月採用の堀部 紗世助教がすべての担当授業科目を担当。(26)
					兼任	教授	沼田 千賀子	平成25年4月	がん医療薬学特論	「がん医療薬学特論」の追加により担当教員となった。(25)
					専	准教授	池田 宏二	平成26年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	新任により担当教員となった。(26)
					専	講師	森脇 健介	平成26年4月	薬学演習Ⅰ 薬学演習Ⅱ 薬学演習Ⅲ 薬学演習Ⅳ 薬学課題研究Ⅰ 薬学課題研究Ⅱ 薬学課題研究Ⅲ 薬学課題研究Ⅳ	新任により担当教員となった。(26)

						兼任 講師	土生 康司	平成25年10月	薬学研究基盤形成教育	新任により担当教員となった。(26)
						兼任 講師	津田 重城	平成26年4月	薬学研究基盤形成教育	新任により担当教員となった。(26)
						兼任 講師	中井 久郎	平成26年4月	薬学研究基盤形成教育	新任により担当教員となった。(26)

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程))の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画			変更状況			年齢構成	
研究指導教員	研究指導補助教員	計	研究指導教員	研究指導補助教員	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
17	22	39	25	21	46		
(21)	(22)	(43)	[4]	[△1]	[3]	65歳	0名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)
- ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 - ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	助教	中山 和彦	転職のため、平成26年3月辞任。（26）
2	助教	井上 潤	転職のため、平成26年3月辞任。（26）
3			

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

中山 和彦助教の辞任に関しては、江本 憲昭教授、八木 敬子講師、平成26年4月採用の池田 宏二准教授が、井上 潤助教の辞任に関しては、水野 成人教授、棚橋 俊二准教授が、両名の担当していた科目を担当するため、大きな支障はないと認識している。
なお、学内への周知については、大学広報誌で告知している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等 「該当なし」

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<薬学研究科 薬学専攻（博士課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
臨床薬学コースと創薬・育薬コースの2コース制。	大阪大学を申請担当大学とする「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の連携大学となり、そのプランが、平成24年3月に選定されたため、連携大学として、大阪大学、大阪薬科大学などと大学院においてがん専門薬剤師養成について検討を進め、臨床薬学コースと創薬・育薬コースの2コースのうち、臨床薬学コースにがん専門薬剤師基盤育成コースを新たに追加した。 (25)

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学院FD実施委員会設置の準備段階として、新しい4年制博士課程設置に向けたワーキンググループ会議を設置、実質的なFD取組検討の場としてきたが、平成24年度に、大学及び大学院のFDについて審議する神戸薬科大学ファカルティ・ディベロップメント委員会を発足させた。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

平成25年度は、4回の委員会を開催し、委員である学長（委員長）、副学長、教務部長、大学院主幹が参加した。

c 委員会の審議事項等

授業の内容及び改善の方策に関する事項。
授業評価の実施、結果の分析及び利用に関する事項。
研修会及び講習会に関する事項。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) FD活動の一環として、大学院で多専門職間連携教育を推進するため、海外から薬学部教授を招聘し、講演会及びワークショップを開催した。
- (2) FD研修会に他大学教授を招聘し、学部と共催で「授業の基本」をテーマに講演会及びワークショップを開催した。
- (3) 関西地区FD連絡協議会に加入し、教員へ他大学でのFDについての広報を行った。
- (4) 関西地区FD連絡協議会共催のワークショップに教員が、同協議会総会・ポスター発表に教員と事務員が参加した。

b 実施方法

- (1) 教授会、大学院教授会で実施するとの報告を行い、電子メール、ポスターで予告の上、講演会を開催した。
- (2) 教授会で実施するとの報告を行い、電子メールで予告の上、研修会を開催した。
- (3) 関西地区FD連絡協議会の情報を基に、電子メールにて、他大学でのFD取組内容を周知した。
- (4) 関西地区FD連絡協議会からの開催案内の連絡を基に、電子メール等にて、参加者を募った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) 平成25年11月に実施した海外における多専門職間連携教育に関する講演会には、他大学を含む教職員25名及び学生11名が参加した。
- (2) 平成25年8月19日に実施したFD研修会には、教員23名が参加した。
- (3) 平成25年度は、約30回の電子メール送信により、他大学での具体的なFDの取組内容を周知した。
- (4) 平成25年4月27日に実施されたワークショップに教員1名が、平成25年5月18日に実施された総会・ポスター発表に教員1名、事務職員1名が参加した。

- d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況
- ・講演者を招聘する等、今後も引き続きFD研修及び講演会等を実施していく予定である。
 - ・関西地区FD連絡協議会の情報を基に、他大学での具体的なFDの取組内容を周知していく予定である。
- ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況
- a 実施の有無及び実施時期
- ・授業評価アンケートを7特論科目、約30名の教員に対して実施、各科目の最終講義後に配布し回収している(大学院生の他、科目等履修生、聴講生にも実施)。
- b 教員や学生への公開状況、方法等
- ・結果を教員へフィードバックし、授業内容や授業方法の改善に役立てている。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
- 薬学専攻博士課程は、高度な薬学領域での専門能力を発揮して医療に貢献するとともに、自立して研究する能力も備えた臨床薬剤師及び創薬、育薬を担う人材としての研究者及び教育者の養成を目的に設置された(入学定員3名)。
- 初年度(平成24年度)は6名が入学し、うち社会人が2名、平成25年度は6名が入学し、うち社会人が2名、平成26年度は2名が入学し、うち社会人が1名であった。平成26年度入学者は定員を下回ったものの、本課程の趣旨・目的に沿った学生を確保できたと考えている。しかし、これまでの入学者については創薬・育薬コースのみで臨床薬学コースの入学者がなく、高度臨床薬剤師の養成という設置趣旨において十分とは言えない面が存在する。
- 今後も引き続き研究意欲にあふれた優秀な学生の確保に向け、学部学生の卒業研究を推進して大学院進学への意欲を高めるとともに、大学ホームページ等を利用した広報活動を展開する。また、平成25年度より開始したがん専門薬剤師基盤育成コースも含め、高度臨床薬剤師を目指す大学院生の確保のため、社会人が履修・研究しやすい環境の構築に努める予定である。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表(予定)時期
- ・平成28年4月以降に公表
- b 公表方法
- ・大学ホームページ上に公開予定(平成28年4月以降を予定)
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・2015(平成27)年4月に、(公益財団法人)大学基準協会の第2期大学評価の評価を受けるべく、学内で準備を進めている。

(注)・設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書
- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表予定時期 (平成26年6月末日)

神戸薬科大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(設置)

第1条 神戸薬科大学ファカルティ・ディベロップメント委員会(以下「本委員会」という)は、神戸薬科大学教授会規程第10条に定めるところにより設置する。

(目的)

第2条 本委員会は、神戸薬科大学学則第7条の2及び神戸薬科大学大学院学則第10条の規定に基づき、教育内容等の改善・向上を図り、ファカルティ・ディベロップメント(FD)を推進することを目的とする。

(構成)

第3条 本委員会は、次の委員をもって構成し、学長が委員長となる。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 教務部長
- (4) 大学院主幹

2 前項の規定にかかわらず、本委員会が必要と認めたときは、他の職員の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(会議)

第4条 本委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 本委員会は、委員の4分の3以上の出席をもって成立する。

(任務)

第5条 本委員会は、次の事項を審議し、教授会に提案又は報告を行い、承認を求めるものとする。

- (1) 授業の内容及び改善の方策に関する事項
- (2) 授業評価の実施、結果の分析及び利用に関する事項
- (3) 研修会及び講習会に関する事項
- (4) その他必要と認めた事項

(主管部課)

第6条 この規程に関する事務は、教務課が行う。

(規程の改正)

第7条 この規程の改正は、教授会の議を経て行うものとする。

附 則

この規程は、平成24年7月23日から施行する。